平成28年度第2回石狩市北石狩衛生センター運営モニタリング会議 議事録

■ 開催日時

平成29年1月13日（金）午前10時00分～午前11時10分

■ 開催場所

石狩市北石狩衛生センター 会議室

■ 出席委員

- ・秋山 雅行 委員長（学識経験者委員）
- ・本吉 俊一 副委員長（町内会、自治会等推薦委員）
- ・蔵崎 正明 委員（学識経験者委員）
- ・山本 裕子 委員（学識経験者委員）
- ・高橋 祐二 委員（町内会、自治会等推薦委員）
- ・小笠原 政美 委員（町内会、自治会等推薦委員）
- ・長谷川 和男 委員（町内会、自治会等推薦委員）
- ・浅水 康男 委員（町内会、自治会等推薦委員）
- ・小山 玲子 委員（市内関係団体等推薦委員）
- ・三島 照子 委員（市民公募委員）

■ 事務局

- ・環境市民部長 新岡 研一郎
- ・環境市民部ごみ・リサイクル課長 伊藤 英司
- ・同課廃棄物担当主査 吉田 卓己
- ・同担当主任 小島 義宗

■ 説明員

- ・北石狩衛生センター業務担当主査 渡部 道夫
- ・同担当主任 有坂 允章
- ・石狩三友メンテナンス株式会社業務部長 熊本 進誠
- ・同部課長代理 松井 隆幸
- ・同社経理責任者次長 佐藤 鋭司
- ・株式会社ドーコン都市環境部主幹 竹森 憲章
- ・同部主任 坂本 仁

■ 傍聴者

3名

■ 議 事

1 報告事項

① 平成28年度石狩市北石狩衛生センター運営におけるモニタリングの実施状況について（上半期分）

② 平成27年度石狩市北石狩衛生センター運営における財務状況について

2 その他

■ 平成28年度第2回石狩市北石狩衛生センター運営モニタリング会議開会

【伊藤課長】

皆さん、おはようございます。ごみ・リサイクル課の伊藤と申します。

本日はお忙しい中、そしてお寒い中お集まりいただきましてありがとうございます、例年の会議の開催は年内の予定をしておりましたが、今回につきましては私どもの他の事務の関係上、この寒さの厳しい時期に開催になりましたことをまずお詫びいたします。

本日の欠席委員でございますが、大黒委員、永澤委員、石田委員、柴田委員の4名から連絡を頂いております、中井委員のつきましては当日の状況によって出席できるかわからないということで連絡を受けております。

それでは時間となりましたので開催して参りたいと思います。

はじめに配布資料の確認をさせていただきます、配布資料は2種類、A4版1枚ものの会議次第、もうひとつがモニタリング会議資料でございます。

モニタリング会議資料には議事に係る資料のほか、参考資料と致しましてモニタリング要領と運営管理状況評価基準を掲載しております。

それでは、ただいまより平成28年度第2回石狩市北石狩衛生センター運営モニタリング会議を開催いたします、はじめに環境市民部長の新岡よりご挨拶を申し上げます。

【新岡部長】

皆さん、おはようございます。環境市民部長の新岡です。

本日はご多忙のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

平成28年度第2回石狩市北石狩衛生センター運営モニタリング会議の開催にあたりまして、私から一言ご挨拶を申し上げます。

石狩市北石狩衛生センターの運営管理業務につきましては石狩三友メンテナンス株式会社により行なわれております。その運営、施設の維持管理につきましては株式会社ドーナに委託し、要求水準書及び事業契約書などに定められた内容の確実な履行がなされて

いるかの確認を行なう目的で施設の、環境的、財務的な視点からモニタリングいわゆる事業評価を実施してきております。

このモニタリングの実施にあたりましては平成24年度より当初の目的どおり行なわれているか評価いただくとともに委員の皆様にご助言を賜り、モニタリング手法の改善を図りながら、的確な事業評価となるようとり進めております。

また、今回は委員の皆様様の任期、最後の会議となっております。この場をお借りしまして心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、本日も活発なご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日は宜しくお願い致します。

【伊藤課長】

それでは次に秋山委員長から一言ご挨拶をいただきまして、引き続き議事進行をお願いいたしたいと思っております。宜しくお願い致します。

【秋山委員長】

皆さん、おはようございます。

皆様、本日はお忙しい中、お寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。

今日は第2回目の会議となります。非常に今週は天気が心配されまして、札幌でもマイナス10度を下回るような非常に寒い中、天気も心配されまして、今日の会議に参加できるだろうか会議を開催できるだろうかと心配していたのですが、最近これだけ晴れた日がないくらい天気が良くて、無事会議が開催できて安心しております。

それでは今日の会議の案件は2件と聞いております。委員の皆様様の忌憚のないご意見、また、ご協力をいただきながら議事進行に努めたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

それでは事務局より本日の日程の説明をお願い致します。

【伊藤課長】

それでは私から、本日の日程についてご説明いたします。

議事の1報告事項①「平成28年度石狩市北石狩衛生センター運営におけるモニタリングの実施状況について（上半期分）」、報告事項②「平成27年度石狩市北石狩衛生センター運営における財務状況について」、以上案件2件を予定しております。

【秋山委員長】

ありがとうございました。それでは議事の1の報告事項①「平成28年度石狩市北石狩衛生センター運営におけるモニタリングの実施状況について（上半期分）」の報告をお願い致します。

【伊藤課長】

それでは、石狩市がこの北石狩衛生センターの運営のモニタリングを委託しております株式会社ドーコンから説明していただきたいと思います。

宜しくお願い致します。

【株式会社ドーコン坂本主任】

株式会社ドーコンの坂本でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

私からご説明させていただきます。お手元にあります資料の1ページ、資料-①をご覧くださいいただきたいと思います。

平成28年度4月から9月までの運営・維持管理・環境管理モニタリング評価結果表でございます。

まず、4月期の評価でございますが共通という項目の運営管理につきましては10.4点となっております。次に防災管理については3.6点、その他が4.0点となっております。

建築・計量棟のなかで、計量については3.0点、建築物管理につきましては3.6点と、焼却施設運転管理につきましては12.8点、維持管理については8.6点となっております。破砕施設の運転管理については6.8点、維持管理については8.6点ということになってございます。

最終処分場につきましては運転管理については11.6点、維持管理については8.6点ということで、これらを合計いたしまして評価点数としては81.6点ということで、総合評価といたしましては80点を超えていますので総合評価はAとさせていただきます。5月以降につきましても結果的に安定的な維持管理、運営をしているということを確認してございますので4月と同じ評価結果となっております。

いずれにつきましても評価点数は81.6点で総合評価はAとなっております。

結果から見ましても、特に大きな問題もなく石狩市さんが示されております要求水準書並びに事業契約書に沿った形で適切な維持管理がされていると判断しておりますので、このような結果になっております。

評価結果の説明については以上でございます。

【伊藤課長】

私のほうからもこのモニタリングにつきまして補足説明をさせていただきたいと思います。

前回までの会議の中で、このモニタリングの評価につきまして意見が出されまして、評価のあり方について内部で検討をして参りました。

方向性と致しましては、現在おこなっている3段階の評価方法を維持しつつ、委員の皆さんに提示します資料につきましては現在おこなっているような数字だけでなく、それ以外の内容も記載することとして、石狩三友メンテナンス・ドーコン・石狩市の3者による話し合いの場を定期的に設け、運営の改善を図って参りたいとこのように考えております。

具体的に申しますと、前回の会議の中では3段階の評価から2段階の評価ということについても答弁のなかで触れさせていただきましたが、2段階の評価では石狩市が石狩三友メンテナンスへ示しております要求水準を満たしているか否かだけの評価となってしまうということから、十分な評価とは判断できないのではないかとこの考えから、引き続き、現在の3段階の評価を継続して参りたいと考えております。

また、この会議への評価の報告については、ご覧になっていただきましたように点数のみの報告ということでさせていただいておりますけれども、現在、モニタリングの状況では点数のほかにその月に発生しました特記事項、こういったものも石狩市に報告していただいているわけですが、こういった中身もこの会議のなかにより報告をさせていただきまして、より運営内容が委員の皆さんに分かるような報告に改めて参りたいと考えております。

さらには、石狩三友メンテナンス・ドーコン・石狩市の三者による話し合いの場を定期的に設けまして、評価が事務的・定型的にならないように運営の改善に今後取り組んで参りたいと考えております。こういったことで次回会議以降は報告させていただきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。以上でございます。

【秋山委員長】

ありがとうございます。只今、報告事項①「平成28年度石狩市北石狩衛生センター運営におけるモニタリングの実施状況について（上半期分）」のご説明いただきました。

そのほかに石狩市さんのほうから、実施状況についてこれからの改善点、こうしていきましようというご提案がありまして、前回までいろいろ話し合った中で、3段階を2段階にしたらどうかなど、あとは点数だけでは分かりづらいといったことについてご検討いただいて、3段階のまま維持する。ただ点数だけでは分かりづらい部分については数字以外にその月の特記事項ですとか特別に提示すべき事項を示していく。

あとは定期的に三者での話し合いを行なうことで改善していく部分を整理して、事務的にならないように努めていくというご提案がありましたけれども、これから検討していくなかでこういった改善点は非常に有効なのかなと考えてはいるのですが、委員の皆さんで、こういった部分はこうしたほうがいいのか、今の点数の部分、石狩市さんからご提案の部分も含めまして、なにかご意見ですとかご質問がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

【蔵崎委員】

私からよろしいでしょうか、4月から9月まで非常に良い評価でいいと思いますが、一点だけ確認させていただきたいのですが、4月から9月まで全部同じ評価点ですよ、81.6点ということで、最高に良い状態を維持していると言えと思いますが、なにかあったときに異常がわかりにくいという心配はないのかなと、要はいつも同じ点数が出やすいような評価方法になっていないのか心配されるのですが、そのことについていかがでしょうか。

だからといって、どうすれば点数の差が出やすくなるのかは非常に難しいと思いますが、

評価する側の意識として、少しの違いを評価に反映させるように考えていかれたほうがいいのではないかと思います、いかがでしょうか。

【株式会社ドーコン坂本主任】

はい。月々の評価をしているなかで、たとえば、要求水準を満たしていれば、可の評価ということになりますけれども、石狩三友メンテナンスさんが努力されることで前の月よりも評価を上げようという気持ちで毎月モニタリング評価をしております、ただし良の評価にするには創意工夫が見られたときには良の評価にしますという評価基準になっています、そのあたりの判断は個人的な判断も当然入ってきますが、基本的にはそういった基準で評価しているのですけれども、過去の評価では、当然ミスがあれば評価は下がったこともありましたので、今回は結果的にミスもなかったし、今おっしゃられましたとおり、今までやってきたものが当然維持し続けているということも当然ありましたので、このような評価となっております。

【蔵崎委員】

お話は非常に良く分かって、そのとおりだと思いますが、評価というものの扱いはふたつあると思うのですよね、ひとつは良く運営が行なわれているとそれとふたつ目は施設が老朽化するとかなにか異常が起こりそうだという予見。この予見のほうはもう少し反映が行なえるような評価の方法がないかなと思って、お尋ねしたのですが、いちおう今後はそのような方向性も考えていかれて、施設の老朽化等が分かるような評価方法という方針も少しは考えていかれたほうが良いのではないかなと思っております。

以上は意見として聞いていただければと思います。

【秋山委員長】

はい、今の蔵崎委員からのお話で、なかなか点数に見えてこない部分あるというところでご提案のあったコメントを付していただくということで、例えば施設等に異常があった場合、どういったところに注目したらいいのかとか、そういった点について3者の会議のなかでどういう話合いが行なわれて、この先どうしたらいいのかということ話合いがされたのかとある程度見えるような形にするということが点数以外の部分での反映になるのかなと考えておまして、どうしても3段階の判定方法にすると点数をその都度、上下させるところというのがたぶん難しいと思います。評価方法が5段階、6段階であれば細かく評価ということができると思うのですが、なかなか3段階のなかでこれできたから一番良い点数までいくかどうかについては最初から論議されておりましたけれども、おそらくひとつ改善しても、その上を目指せるという考えがあれば、なかなかその上の評価までいかないのかなという部分がありまして、その辺りの評価する側の判断もひとつあると思いますけれども、ある程度どのような改善点なのかというのは少なくとも点数だけでは見えてこない。いまご意見ありましたようにどの施設、機械等に異常の可能性があるのかとか、そのような内容を話合いでされたという事実を例えばコメントのなかでごみ処理施設

が稼動して10年過ぎたので、こういった部分はきちんと見ていく必要がありますよとか、そういった部分がある程度、月の評価の中でコメントとして付されていると非常にわかりやすいかなと考えておりました、こういった形で示されていくのかというところは次年度以降になると思いますけれども、そういった部分のご検討はこのあとじっくりしていったほしいと思います。こういったことは示していただいたほうがよろしいと思いますし、例えばこの評価点は石狩市のホームページにも公表されることにもなりますので、私たちはモニタリング会議の場でじっくり話を聞くとなんとなく理解できたとなると思いますけれども、例えばこれが一般の市民の方に提供するときにはどういう形がいいのかも含めて、考えていただければと非常に有難いのかなと考えております。その辺の部分について他の委員の方からもご意見ございましたらお願い致します。

【三島委員】

よろしいでしょうか。6ヶ月間なにも評価点が変わることがあるということもよく分かるのですが、ただ数字だけを見たらきちんと運営されているのだろうか、形だけしか見えてこないで、だからホームページに公表される評価についてもコメントを付して掲載したほうがちゃんと運営されているとわかって、はっきり見えてくるのではないかと、このままだと石狩市もドーコンさんも石狩三友メンテナンスさんも6ヶ月間同じ評価で、またこの6ヶ月間だけではなく4年ぐらい同じ評価点だと思います。これは非常におかしいと思うんです。ただ評価点がなかなか動かないことについては何回も質問して分かっているのですが、あともうひとついいですか。

ずっとドーコンさんは評価しているわけですが、石狩三友メンテナンスに対して評価が動かないという内容についてはわかっていて、石狩三友メンテナンスに対してこういう欠点があるのではないかと評価担当だからわかると思うんです。先ほど三者の話合いなされるって聞いたんですけど、ぜひそういうところも石狩三友メンテナンスも一生懸命やっているつもりだけれど、評価されたらこういうところが弱いので評価が上がらないのではというところを指導していただくのがコンサルタントの役目だと思うので、ぜひ改善していただきたいのと、石狩市はドーコンさんに対して委託しているわけですから、これだけ評価点が変わらなくて内容がわかっていて、このような資料を出してくるのか、ていうのもちょっと不思議だなって思うんですね。それぞれ石狩三友メンテナンスは石狩三友メンテナンスの特色があって、資料を見ていたら何か書類が作成されていないからというのが結構点数が低いと思って見ていたんですけど、あの施設の老朽化とかは仕方がないかと思いますが、資料や書類の作成がまずいのかなと素人考えでそうなのかなって見ていたんですけど、そのあたりについてドーコンさんは4年ぐらいコンサルをやっているのか聞きたいと思います。

【株式会社ドーコン竹森主幹】

株式会社ドーコンの竹森でございます。当初から私は関わってございまして、私どもは基本、要求水準書という石狩市がこの施設に関してこういうふうな管理、運営してほしい

という委託業者への要求水準があります。それに対して石狩三友メンテナンスさんからこの月はこのようなことをやりましたという報告書があがってまいります。それらを照らし合わせて要求水準書の項目を満足しているかどうかを確認するというのが大きな目的で評価をしております。そのうえで今の評価基準でいうと3段階評価ということになっております、それで○か×だけですけれど、その○についてさらにもう一段階あげて、良か可かといったところの視点をいろいろなお話を聞きながら、書類を見ながら確認ということとさせていただいているというのが今までの流れでございます。

今回のこの事業につきましては長期包括委託ということで長期にわたって石狩市さんと石狩三友メンテナンスの間で契約を行なわれておりますので、そのなかで石狩市さんから支払われるお金のなかでその間施設を適切に運転管理していくうえで必要な修繕ですとか補修については年間計画あるいは月間計画で先を見据えて、そろそろ老朽化しそうだからその前に修繕しようとかという計画も当然確認させていただいておりますし、それに沿って実際工事等を行なわれているか確認させていただいて、お話をしながら評価の項目にもありますけれど、そういう項目でも確認させていただいているということになっております。

当初からいろいろお話させていただいて、資料についてももう少し分かりやすくとかあるいは同じ部分が2ヶ所3ヶ所とあるのであれば、自動的に反映されるのであればいいですけれど、誤記だとか写し間違いだとかということも当初あったもので、当初はそのあたりの評価で点数が変わったりしていて、その結果を用いる次の月というものもあるので、それは間違えてはまずいというところは当然評価を下げて、当初は不可という評価もあったかと思うのですが、そういう評価をさせていただきました。

ただ現状、そのへん書類の整理の仕方等も改善させていただいて、いろいろご意見させていただきながら改善されていっておりますので、そういう単純ミスというのがなくなってきたというのが現状となっておりますので今後、やっていくとすればもう少しこういう点で良いのかどうかというところをアドバイスさせていただきながら、先ほど石狩市さんのほうからも三者会議というお話もございましたので、そういう場で意見を言いながら、少しでも良い方向に進めていければいいかなとは思ってはございます。

【新岡部長】

私からもよろしいでしょうか、今ドーコンさんのご説明にもありましたけども、今回の評価につきましては点数が低いところもあり、良、可に分かれていると思っておりますけども、可というのが少なくとも市が求めている基準まではいっているということですので、決して点数が低いという感覚ではなく、また悪いという評価ではないということなんです。それで良になると要求水準書のとおりやっているといるということですので、そのようにご判断いただきたいのと、それと蔵崎委員からご指摘いただきました施設の予見という部分ですね、次年度は長期包括的委託が始まってからの中間年という状況になっております、私ども市としてもごみ処理施設の将来を考えて、いかに長きに渡って使っていくかという視点で今後、いろんな部分を見ていかななくてはならないと思っておりますので、

そのあたりの検討はこれから始めて、またモニタリング会議の場でもフィードバックさせていただきたいと考えております。私からは以上です。

【三島委員】

私よくわからないのですが、ドーコンさんは評価するだけではなくてアドバイスもするのですよね、石狩三友メンテナンスに対して。それであればもっとアドバイスとか出来ないのかなって思うのですが。

【秋山委員長】

三島委員が進めていっていただきたい部分というのはおそらく、いろいろ得意な面、不得意な面を含めてどう評価して、たぶん得意な面についてはそういった点数につながるような評価といいますか改善というのがおそらく可能だけれども、まあ、それぞれ得手不得手といいますかこういう部分については弱いのでこうしていくと点数がアップできるのではないかとこのところをどのように捉えていかれるかっていうところを見ていっていただきたいというような意見なのではないかと思っているのですけれども。

【三島委員】

たぶん1年、2年、3年くらいたつと会社組織の性質とか性格とか分かってきてアドバイスしやすくなると思うのですけれど、ずっと見てもやっぱり運転計画を作成していないと1.8点とそれがずっと続いていて、私的には運転計画作成っていうのはなんかもっと簡単にできるのかなって、変な話なのですけれど評価が上げられるところなのではないかなとそうでもないのですか。

【伊藤課長】

たとえば運転計画を作成して報告しているという評価が可で1.8点ということでしょうかとやっていますよと。

【三島委員】

しっかりやっていますということはわかっていて意味もわかります。でも、ふつうホームページに公表されている情報がずっと同じ点数でそれだけを見ていたら、絶対にこの人たちおかしいなって思いませんか。ずっと同じ点数であつたら、私はそう捉えてしまうんですけど、少しでも点数が上がる動きがあってもいいのかなって思うんですけど、私は委員を4年やっているんですけど、たぶん変わってないと思うんです。

【伊藤課長】

最初の2年間は4段階評価だったので、点数の動きはあったと思いますが。

【三島委員】

そうですね、最初の2年間は点数の動きはありましたね、そのあと何年も変わらないというのは毎回言っていることなので、よくわかります。

【秋山委員長】

たぶん、なかなか点数の上積みに反映できない部分ってもちろんあって、だからといってそこをないがしろにしているのかっていうとそういう部分は見えてこない点数だけじゃ見えてこない。

【三島委員】

だからすごく恐ろしいのは、私たちはモニタリング会議に出席して、委託業者の方たちも知っているけど、情報をホームページなどからしか得られない人たちからすると石狩市はどうなんだろうって思われることが心配なんですけど、少しでも変わるようなアドバイスしているのかなと、だけどよくわかりました。

【秋山委員長】

たぶん一番大きな部分というのは、やはり点数だけだとどういう状況なのかとまず見えてこないということが一番問題点だと思います。その辺の部分について月々の努力もそうなんですけど、たとえば三者の話合いのなかでどういった項目について改善する必要があるのかとかそういった部分をどう捉えているのかとわかるようなこういった表示といいますかそういったものがされるといろいろ見る側のほうもいろいろ理解できていくのかなと、おそらく三島委員はそのへんの部分を改善していただきたいことだと思いますけども。

【新岡部長】

あくまで点数だけでは表現しきれていないということが一番大きいと思うんですけども、さきほど伊藤課長が当初説明したとおり特記事項の部分をきちんと公開するというような話を申し上げていますし、また三者協議で話し合った内容となにか表現できるような点数だけでは見えないので、文章的な評価も必要になってくるのではないかとそのあたりも含めて改善していかなければならないかなと考えております。

【秋山委員長】

今の部分については最初のご説明のなかで石狩市さんのほうから評価段階の部分の話と数字以外の記載についてのご提案と三者による話合いを十分にとっていくというようなことをご提案いただきましたので、そのへんの部分も含めてもう少し来年度以降これが反映されるよう具体的にたとえばどのような形で表示するのかといたところを、今日のご提示できないと思いますので、次回の会議までには十分練っていただきたいなど少なくとも来年度以降はこういう形で4月以降は評価できるような形で進めていただきたいな

というふうと考えております。その他なにかご意見等はございますか。

【山本委員】

私からもよろしいでしょうか、今、委員長がおっしゃられたとおりでと思いますし、特記事項ということで部分的なものではなくてぜひ項目ごとにあるといいのかなと、ちょっと分量が大変になるかもしれないので難しいところあるかもしれませんがそれぞれの施設についてどういうふうなのかあると非常に良いのかなと思います。

それで実際今はまだ特記事項はまだ記載されていないのですが、この上半期のなかでなにか気になったところとか点数には表れていないことでなありましたら教えていただけますか。

【伊藤課長】

たとえば去年の5月に行なったモニタリングのなかで4月19日に加圧ポンプの電圧が通常6,600ボルト必要とされるところが6,300ボルトであったことが確認されたとこのことについては北海道電力に連絡をいれて4月22日に復旧した、このトラブルに原因は電圧の調整機器の故障によるものという報告を受け、これにつきましては4月15日に警報器が作動したことを確認したものの対応がなされていなかったということがあったと、今後このような事態が発生した場合は北海道電力から石狩三友メンテナンスに書面で報告をするということになったと、このような内容がモニタリングを行なった際に明らかになりました。このことについては電圧関係のトラブルということで北海道電力側のトラブルということになりますので、特に石狩三友メンテナンス側になにか瑕疵があったわけではなく、北海道電力側のトラブル、電圧器のトラブルということがモニタリングのなかで報告がされているというのがひとつ、次に7月に報告された6月13日に1号炉、2号炉とふたつの焼却炉があるのですが、乾燥のためのシュートといわれるものが完全に閉塞してしまつたと、これについてはべたついた灰によりシュートの壁に張り付いてしまい完全に閉塞してしまつたと、原因については6月7日に投入された食べ物のあんこが大量に一般廃棄物として搬入され、それを燃やしたことによって閉塞したということがあったと、このことについては今後、事前に焼却炉に投入可能なものかどうかをしっかりと石狩三友メンテナンス側で確認したうえで対応するというを確認しています。

このような形でいくつか毎月のモニタリングのなかで特記事項が報告されているような状況であります。以上でございます。

【山本委員】

よくわかりました。最初に特記事項を報告するようにしますというお話がありましたけれども、特記事項というのは今のお話のようなことでしょうか。

【伊藤課長】

毎月起きた内容とそれと業務のなかでたとえば改善をしたとかなにか問題があったと

かそういったことで今のは実際の運営をしていくなかの状況ですけども、それ以外のことについても報告させていただきたいと思っております。

【山本委員】

たぶん、今の特記事項を書けば一般市民でもわかりやすいと思います。

【伊藤課長】

そうですね、今のようなことを全て書くわけではなくて、なにかわかりやすいようにその月々起きた事柄を報告していくようなことを考えたいと思っております。

【秋山委員長】

トラブルをふまえてこの後の運営にどう生かされたかということが非常に重要だと思いますので、たとえば4月の電圧のトラブルでは連絡体制をきちんと北海道電力とのやり取りを今後できるようにしたという部分とあと6月については事前確認をきちんと行なう手順をいれることによってそういうトラブルを回避する方向にもっていくようなことができたこと、そういった部分が示されているとこのあとには非常に役立っていることがこんなことに繋がっていますと示すと見ている側もわかるのかなと、どういった部分に生かされたかということ標記していただくことが一番わかりやすいのかなというふうに考えています。

私から質問ですけど、今まで3者の協議はどれくらいの頻度で行なわれていたのでしょうか。

【伊藤課長】

今までは、2者によるものが中心でして、ドーコンさんと石狩三友メンテナンスさん、それとドーコンさんと石狩市、また石狩市と石狩三友メンテナンスさんということで2者同士の話し合いを行なっていたので3者が一同に介して行なうということがなかったので定期的に行ないたいと考えてございます。

【三島委員】

何回くらい行なっているのですか。

【伊藤課長】

2者での話し合いについてはモニタリングの際には必ずドーコンさんと石狩三友メンテナンス、ドーコンさんと石狩市という形で毎月行なっております。モニタリングは月一回行なっているのですが、そのときに必ず話し合いの場は設けています。

それと石狩市と石狩三友メンテナンスとの話し合いについては不定期ですけども年に数回、5～6回、こちらから衛生センターに訪問したり、石狩三友メンテナンスさんが石狩市役所にいらっしゃることもありますし、さまざまな場面でお会いする機会がございます

ので日常的に情報交換は行なっているのですが、改めて話し合いとなると回数が限られてしまうという感じになります。

【秋山委員長】

おそらく2者の部分については少なくとも毎月行なわれている部分もありますので、継続的に行なわれていくと思いますので、そういった部分の話し合いは3者での共通認識を持つことも重要だと思いますので、やはり話し合いの機会を何回か作っていただいて今後の運営についていろいろご検討あるいは改善する部分があるかどうかというところも含めて話し合っただけだと役に立つのかなと思います。

その他にご意見、ご質問等はございますか。

【秋山委員長】

ご質問等ないようですので、議事の①の報告事項について事務局で検討していただければと思います。つづきまして次の議事に移りたいと思います。

それでは報告事項②「平成27年度石狩市北石狩衛生センター運営における財務状況について」ご報告をお願い致します。

【株式会社ドーコン 嶋参事】

財務モニタリングを担当しております株式会社ドーコンの嶋と申します。

モニタリングの概要について過去に何回か説明しており、繰り返しになりますが年に1回ですのでおさらいとして聞いていただきたいと思います。

財務状況のモニタリングについてはですね、先ほどお話にもありましたが、いくつかの項目の数値を設定しておりますそれを数値化した上で評価をしております。評価の主眼はモニタリング要領にありますように公共サービスの要求水準の確保や事業継続性を保つために事業者である石狩三友メンテナンスさんが北石狩衛生センターの運営を安定的かつ継続的に可能な財務状況にあるか確認することがモニタリングの目的となっております、具体的には収益性、安全性、キャッシュフローの3分野をモニタリングの対象としております、これらの項目の意味するところを簡単に申しますと、収益性というのは継続して事業を行うだけの収入があるかどうか、それから安全性というのは負債の支払い能力が十分であるか、キャッシュフローというのは、資金繰りに問題がないかというようなところをメインとしてモニタリングしております。

これらを数値化するにあたって、石狩三友メンテナンスさんから監査済みの財務諸表の提出を受けております。

それでは実際の数値についてご説明致します。資料の39ページになります。第5期平成27年度財務状況のモニタリングの結果です。あとですね、具体的な指標についてはですね40ページの3の参考に記載しております、具体的な数値の指標関係、何%以上が良いとかあるいは何%以下が望ましいかというものについては社団法人日本内部監査協会の収入監査役ガイドこちらを参考にしております。

それでは収益性についてですが、総資本経常利益率、自己資本経常利益率、売上高経常利益率いずれも前期と比較して上回っております。総資本経常利益率とは使ったお金でどれだけ利益を稼いだかを自己資本経常利益率とは自己資本の有効活用の度合い、売上高経常利益率はどれだけ効率の良い経営を行なっているかを示すものです。総資本経常利益率と自己資本経常利益率が増加したことについては前期から総資本や自己資本が増加した割合以上に経常利益率の増加が多かったので、結果として数字が上がったという事になっております。売上高経常利益率に関しましては前期と比較して減収増益だったために数字が前期より良くなっておりますということなのですが、減収と申しましても第3期以上の売上高となっております過去と比較しても特段低いというものではありません、特に問題はないと判断しております。これら3つの項目につきましてはすべてプラスとなっております、かつ前期以上でありますので、問題はないと判断しております。

続いて、安全性についてですけれども、数値の目標がある指標のうち流動比率、当座比率、固定比率、固定長期適合率いずれも、目安をクリアしていますので、これらについても問題はないと考えております。自己資本比率は利益が毎年蓄積され長期の借入金の返済も順調であるので、こちらについて数値は年々上昇しています。

それから、流動比率、当座比率は短期的な支払い能力を示すもので手元の資金力を示します、固定比率と固定長期適合率は固定資産の調達をどの程度、自己資本や長期資金で賄っているかを表すものでこれは資金繰りの圧迫度合いを表します。

それから自己資本比率はどの程度、返済不要の自己資本を元手に事業を行っているのかということを表す数値になっております。

それから、キャッシュフローについては営業キャッシュフロー、投資キャッシュフローがプラスになっておりまして財務キャッシュフローがマイナスになっております。営業キャッシュフローというのはその会社が一年間でどの程度の現金を生み出す能力があるかを表す数値であり、三つのキャッシュフローのなかで一番重要だと言われております。投資キャッシュフローは主に固定資産の取得及び売却で増減したキャッシュの量を表し、財務キャッシュフローは営業活動や投資活動を維持するためにどの程度の資金が調達または返済されたかを表すものです。財務キャッシュフローで最も注目するものとしては借入金の増減があります。財務キャッシュフローについては借入金の返済によりマイナスとなっておりますけれども営業活動と投資活動によるキャッシュの獲得の範囲内に納まっておりますので結果として現金増減額がプラスになっていることから問題はないと考えております。

以上、全体をとおして見ても不審な点もございませんし、各財務分析の指標についても懸念される部分もないですから、第5期の財務状況としては良好と判断いたします。

私からの説明は以上です。

【秋山委員長】

ありがとうございます、それでは報告事項②「平成27年度石狩市北石狩衛生センター運営における財務状況について」の報告をいただきましたが、経済について勉強していな

いと分かりづらいのかなと私自身はどう数字を見ていったらいいのか分からない部分もあるのですけれども、経済指標のそれぞれの項目を判断してかなり安定的な経営ができているのかなというふうな結果を示していただいたのですけれどもこの部分について、何かご意見ご質問等ございましたらお願い致します。

【蔵崎委員】

私からよろしいでしょうか。私もあまり分からないのですが、分からない人がどう思うかというお話で高いほうが良いという表現がありますが、なにをもって高いとするのかが分からなくて、いくつ以上あれば非常に良いとかいくつ以上あればまあ良いとかそういうふうに具体的な数字があれば、高いほうが望ましいといわれて13.9%って高いのかどうかの判断がなくて、何%以上あれば高いとかそういう表現がもし入れていただければ素人には分かりやすいかなと思いますがいかがでしょうか。

【株式会社ドーコン島参事】

ご指摘はごもっともですけれども、これは大変難しい問題でございまして一般的な指標というのがあれば、こちらに書いてありますように具体的な数値、たとえば200%以上とか100%以下というようなことができるのですが、業態、業種によって非常に変動しやすい数値がありまして、たとえば自動車を作るような業種は工場をもって設備をたくさん持っていますので固定資本と呼ばれるもの非常にたくさんあるんですけれども、我々のようなコンサルタント会社に関しましては、極端な話、紙と鉛筆あと人間の頭があれば出来るというような業種でありますので、固定資本と呼ばれるような建設機械も持っておりませんし、非常に少ないのでし、それでAとBを比較してどっちが高くてどっちが低いのかというのは一概に言えない部分の指標でございましてご指摘はたしかにごもっともだと思うのですが、これ以上の書き方ができないのが現状でございまして。

【蔵崎委員】

A社とB社を比較してというのが難しいのが分かりましたが、地方公共団体のごみ焼却場としてはどうなのでしょう。

【株式会社ドーコン島参事】

こちらですが、ごみ焼却場の施設を石狩三友メンテナンスさんが所有しているわけではありませので、先ほどお話したとおり業種、業態によって示されているものがあればそれを採用して説明することができるのですが、どれを見てもなかなかこういう数字だといいいのが載っていないので一般的に見て、今ここで問題になっているものは上の三つそれから6番目の自己資本比率だと思いますけれども、上の三つに関しては経常利益率がこれだけあるというのは相対的にいって高いというふうに私は個人的に判断しますし、自己資本比率に関しても、先ほどもお話ししたけれども事業を行なって利益の蓄積が進んで自己資本が増えていくごとに高まっていくものですから、たとえば事業が始まったばかりの段階

と事業を行なって、しばらくした段階での答えは変わってきますので、その段階その一面を見て、低いとか高いといことはなかなか申し上げにくいことで、第5期の段階としてこれくらいの数字であれば高いほうなのかなと満足できるのではないかなと判断しております。

【蔵崎委員】

我々がこういうものを拝見して、一番上の損益計算書である程度の利益があるのと、安全性でほとんどの項目で所定の項目を達しているというのと最後のキャッシュフローでお金がうまく回っているというので判断していいのでしょうか。

【株式会社ドーコン島参事】

そのとおりだと思います。そういうふうに判断していただければと思います。

【蔵崎委員】

はい、ありがとうございました。

【秋山委員長】

はい、その他になにかご意見ご質問等はございませんか。

【三島委員】

安全性の当座比率の100%以上が目安と書いてあって、今回の数値が2,280. %ということはどういう事なのですかね。

【株式会社ドーコン島参事】

はい、端的に言ってなにか支払いを迫られたときに支払いに回せるお金がたくさんあるということがございます。単純に2,280%あるというわけではなくて、すべて現金ということではなくて、現金、預金と現金、預金にすぐ変えられるものを合わせたものが非常にたくさんあるということなので安全性は非常に高いと思います。

【三島委員】

はい、わかりました。

【秋山委員長】

その他になにか、ご意見、ご質問等ございませんか。

【山本委員】

収益性などの評価文章のなかで第4期と比較してとあるのですが、もし出来れば前期のデータがあれば大変ありがたいのかなと思ひまして、先ほどこの値が低いのか高いのかと

いうお話がありましたけれども、結局どうなっていたかという動きが分かれば前よりも改善しているか、安定していますので同じような値で上手くいっていますというのが分かるのかなと思いますので、もし参考資料としてでもなにかあればありがたいのかなと思います。

【秋山委員長】

そうですね、前期との比較、それと5期の評価をふまえて、次期についてどうなのかという見通しを検討することは可能なのでしょうか。

【株式会社ドーコン 嶋参事】

財務状況のモニタリングということはですね、その会社の今現在の経営内容というよりもいまだどれだけお金があるかとか、たとえば極端な話で、いま赤字の経営をしていたとしても、過去の蓄積によって会社のなかに内部留保がたくさんあってお金は余裕をもって持っているというような状態は世の中にはあるかと思いますが、今現在の経営内容よりも今会社にどれだけお金があるかというところを主眼において見る所作になっておりますので、経営内容についてアドバイスの的なものですかそれらの予測に関しては私どもが行なっているモニタリングから外れるようなことをございますので、今現在はそのような見通しを検討することは考えておりません。

【秋山委員長】

いま、私がお質問した見通しについて繋がることなのですが、こういった経常利益という数字が出たときに、かなりプラスと結果が出ているわけですが、ようするにこのプラスで出てきている利益というところを施設のほうにどう使っていくあるいは将来的にどういう方向にこのプラスのものを使っていくという見通しを立てられているのかを計画性というかその部分に繋がっていくのではないかなと考えてはいるのですが、この辺の数字をふまえて、今後10年先にごみの焼却場をどうしていくかという見通しというのは、たぶんこういった予算的な部分のからみもあるとは思いますが、将来的なこういったごみ処理施設に関するそのあたりの見通しとしてこういった部分の利益をふまえてこういうふうな使い方が出来るのではないかなというようなお考えがあれば、ちょっとお示ししていただければ思うのですが、いかがでしょうか。

【伊藤課長】

まず、現在石狩三友メンテナンスさんの行なっている長期包括的委託契約につきましては平成24年度から平成34年度の11年間の契約をしているところでございます。平成29年度につきましては11年間のちょうど中間年度、6年目ということで石狩市といたしましても平成35年度以降この施設をどのように運営していくかというところの判断を平成29年度中にしていきたいと考えておまして、そのためにこの施設の診断等も必要だというふうに思っております。施設の診断をふまえてこのSPCといわれる石狩三友

メンテナンスさんで内部留保となっているお金については他の会社に転用できないと聞いておりますので、いかに施設の修繕等にまわしていく形になるのか、それはまだ具体的にお話しているわけではないですが、このへんの部分につきましては、今後石狩三友メンテナンスさんとお話をしながら、この施設の修繕、内部留保もふくめて話し合いをしていく必要があるのかと考えております。

【秋山委員長】

ありがとうございます。石狩三友メンテナンスさんといろいろ動くお金で利益を上げられている状況だと思いますので、そういった部分については施設の有効的な利用であるとかこのあとの設備には十分生かしていただきたいなと考えています。

その他ご意見、ご質問等ございませんか。

【秋山委員長】

よろしいですか。それでは予定しておりました議事が終わりましたので、議事の2その他ということで、事務局から何かございますか。

【秋山委員長】

ありがとうございます。資料のほうに単年度評価ということで掲載していただいて、長期的な展望としてもある程度、努力されているなかで運営されているということ評価できるのではないかと受け取れるのですけれども、そのあたりについて委員のみなさま、なにかご意見ございませんか、財務状況についてはよろしいでしょうか。

それでは議事の2、その他ということですが、事務局から何かございますか。

【伊藤課長】

それでは私から2点連絡がございます。

1点目はこの施設のし尿処理施設についてですが、これまでの運営モニタリング会議のなかで何度か説明してきておりますが、この施設にあります、し尿及び合併浄化槽汚泥の処理につきましては昨年の平成28年9月をもってこの施設へのし尿等の搬入を打ち切り、10月から札幌市へし尿及び合併浄化槽汚泥の処理を搬入し処理の委託をしているところでございます。

現在は今年度末になります3月末をめどに9月までに搬入されましたし尿及び合併浄化槽汚泥の処理を完了しましてその後し尿処理施設の清掃等を行い、閉鎖に向けた事務を執り進めていく予定としているところでございます。以上1点目でございます。

2点目につきましてはこのモニタリング会議についてです。

冒頭の部長挨拶のなかにもありましてとおり、今回のこの会議をもちまして今年度の会議は最終となりまして3月末をもって皆様の2年間の任期が満了することとなります。

改めまして皆様のご協力に感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今後、また市民公募の委員の皆様につきましては改めて公募という形になりますが、可能であれば学識経験者の方々、各団体から推薦委員として選出された皆様につきましては来期も引き続きお願いしたいと考えておりますので宜しくご検討いただければと思います。私からは以上でございます。

【秋山委員長】

ただいまの報告についてご質問等はありませんか、よろしいですか。なければ以上になります。

本日は委員の皆様のご協力でスムーズに議事を進行することができました。ありがとうございました。

これをもちまして、平成28年度第2回石狩市北石狩衛生センター運営モニタリング会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

【一同】

ありがとうございました。

議事録を確認しました。

平成29年 3月13日

石狩市北石狩衛生センター運営モニタリング会議

委員長 秋 山 雅 行